

## 重度重複化と多様化に対応するアシスティブ・テクノロジーの活用と評価

平成21. 22年度「特別支援教育総合研究所との研究パートナー」

### ○研究目標

コンピュータなどコミュニケーションツールを利用することで本人の自己選択の幅を広げQOLを高める

### ○対象児童

- ・ 小学部2年生
- ・ 脊髄性筋萎縮症
- ・ 知的障害は認めない
- ・ 両眼球とわずかであるが右手首（尺屈）と四指の第一関節を随意的に動かせる

### ○入学までの取組

- ・ 視線によるコミュニケーションボードを使った取組
- ・ 携帯用会話補助装置のレッツ・チャットにエアバッグセンサースイッチをつなぎ一点操作式で文字入力する取組

### ○研究での取組

- ・ 使用スイッチ  
棒スイッチ  
エアバッグセンサースイッチ

- ・ 使用機器等  
携帯型扇風機  
シャボン玉自動製造器  
吠える犬の人形  
携帯用会話補助装置  
（レッツ・チャット）

## ○実施計画

### (1) スイッチの検証

- ・眼球の動きなど生体スイッチを使ってコンピュータを動かしてコミュニケーションする

### (2) 自作教材の作成と活用

- ・コンピュータにつないだスイッチを一点入力することでページめくりし、自分の力で童話を楽しむ

### (3) コンピュータゲームの活用

- ・障害者用一点入力走査方式のゲームを利用しコンピュータゲームを楽しめる

### (4) テレビ視聴

- ・テレビのリモコンに接続し、スイッチで番組や音量の設定をして日常生活の中で利用する

### (5) 電子メール

- ・コンピュータをインターネットに接続し、ワープロで作成した日記を通して両親とのコミュニケーションをとる

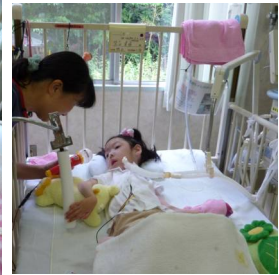
### (6) 音声によるコミュニケーション

- ・補助機能（VOCA）を利用し、一点走査選択による音声を生活の中で利用する

## ○使用機器等の紹介



携帯型扇風機



メロディーマイク



楽器演奏：鉄琴



くす玉割り



ハンドベル



電子絵本



コミュニケーションボード

